令 和 ２ 年 ８ 月 ３ １ 日
東海三県地盤沈下調査会

濃尾平野において13年ぶりに沈下域が確認されました

～ 自然災害に備えて観測・監視を継続します ～

東海三県地盤沈下調査会※は、令和 2 年 8 月 27 日に東海三県地盤沈下調査会　評議会を開催し、令和元年における濃尾平野の地盤沈下および地下水位の状況等についてとりまとめました。

※東海三県地盤沈下調査会とは、愛知県・岐阜県・三重県における地盤沈下の実態と原因の調査究明、および各関係機関相互の連絡調整をはかることを目的に、関係行政機関の職員および学識経験者をもって構成される組織です。

【概要】

・令和元年に水準測量を実施した水準点 899 点のうち約 87%が沈下を示しており、年間 1cm 以上沈下した水準点は 21 点でした。今回 13 年ぶりに沈下域※が確認されましたが、2cm を超えて沈下した水準点はありませんでした。

※沈下域 ： 年間沈下量が 1cm 以上の水準点が 3 点以上隣接する等、面的に 1cm 以上沈下していると考えられる区域

・最近5ヶ年では、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している濃尾平野中西部に、 累積沈下量が大きい地域が分布しているものの、これらの地域でも沈下量は年間1cm 程度と緩やかです。

・地下水位の経年的な傾向については、昭和 50 年代より回復（上昇）傾向に転じ、水位の低下・上昇が振れ幅を減少させながら繰り返しており、近年の横ばい傾向にある状況に変化はありません。

・濃尾平野においては、南海トラフ巨大地震等に伴って発生する津波や、気候変動に伴う海面上昇に対して関心・警戒が高まっており、高潮・洪水・内水氾濫及び地震災害等の潜在的な危険性が高いことから、より一層の注意を払い、地盤沈下状況及び地下水位の観測・監視、地盤沈下対策を長期的な視点から継続して行う必要があります。

□ 配 布 資 料:

【概要資料】令和元年における濃尾平野の地盤沈下の状況

□ 備 考:

令和元年における濃尾平野の地盤沈下および地下水位の状況等をとりまとめた資料につきましては、以下ホームページにて公表しておりますので、こちらをご確認ください。

https://www.gsi.go.jp/chubu/toukai3kenjiban.html

□ 配 布 先: 中部地方整備局記者クラブ

問い合わせ先:

東海三県地盤沈下調査会　事務局

・国土交通省　国土地理院　中部地方測量部　測量課　測量課長　市木（いちぎ）　文康（ふみやす）

TEL:052－961－5646（直通）

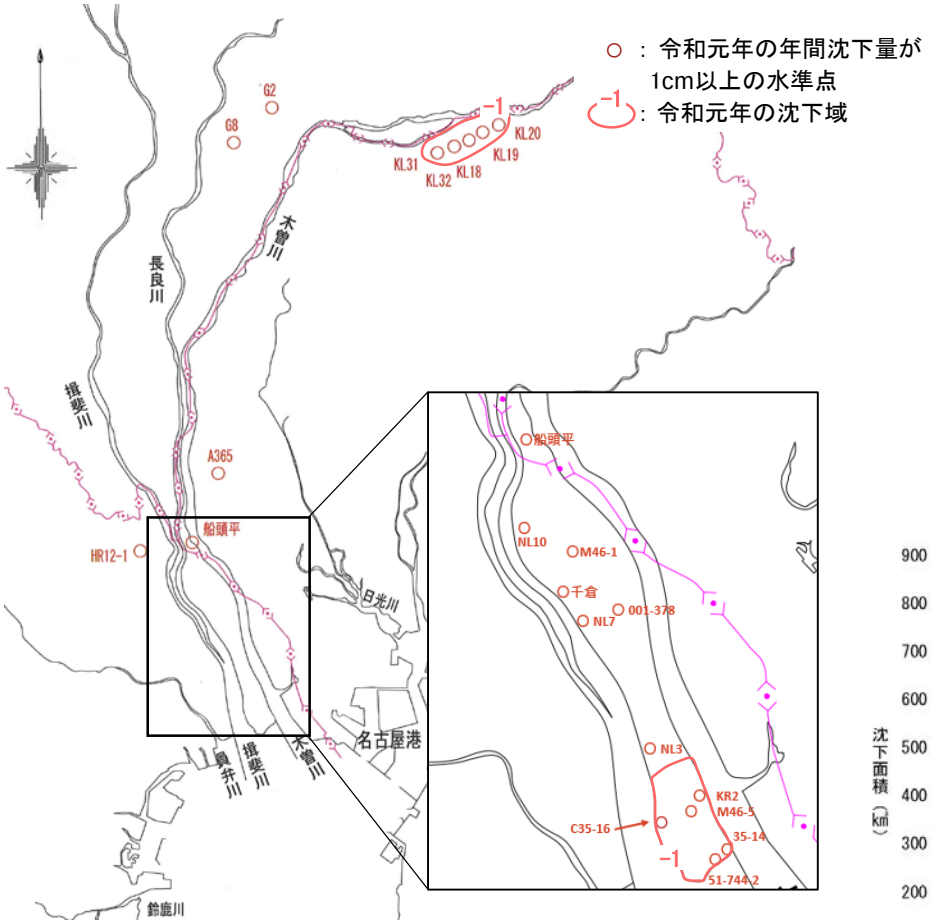
・国土交通省　中部地方整備局　河川部　河川計画課　課長補佐　赤畠（あかはた）　義徳（よしのり）

TEL:052－953－8148（直通）

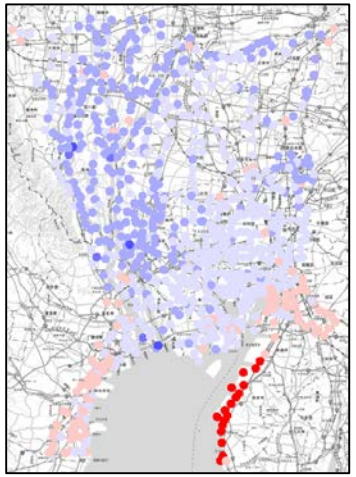
【概要資料】 令和元年における濃尾平野の地盤沈下の状況
①地盤沈下の状況

東海三県地盤沈下調査会

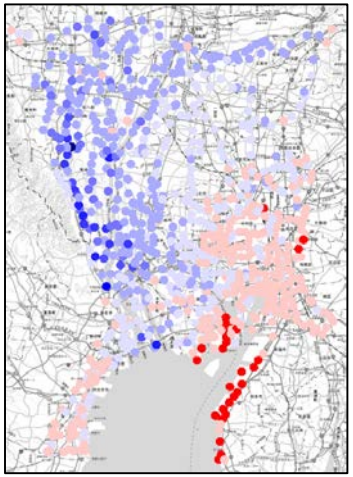
令和元年に水準測量を実施した水準点899点のうち約87%が沈下を示しており、年間1cm以上沈下した水準点は21点でした。今回13年ぶりに沈下域※が確認されましたが、2cmを超えて沈下した水準点はありませんでした。
最近5ヶ年では、沈下しやすい軟弱な粘土層が厚く堆積している濃尾平野中西部に、累積沈下量が大きい地域が分布しているものの、これらの地域でも年間の沈下量は1cm程度と緩やかです。



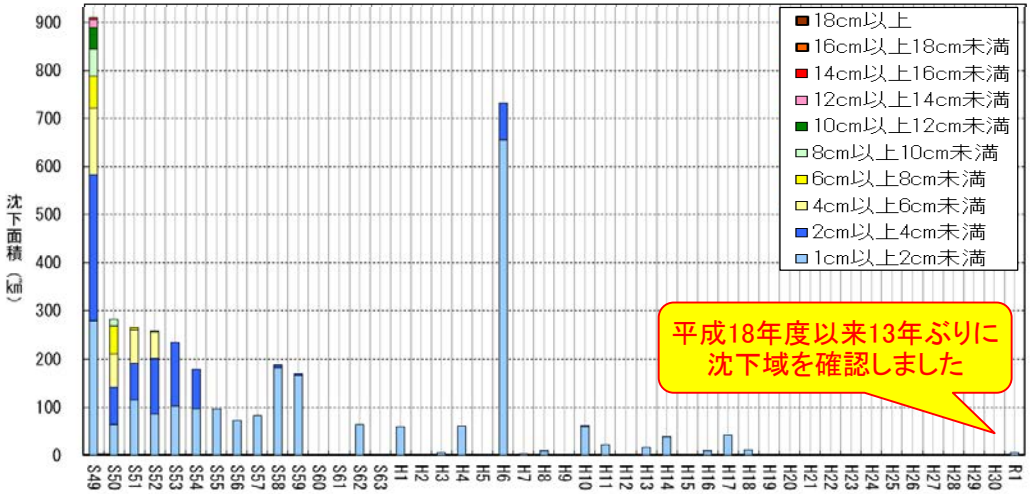
過去5年間の累積地盤変動量



過去5年間の累積地盤変動量



過去10年間の累積地盤変動量



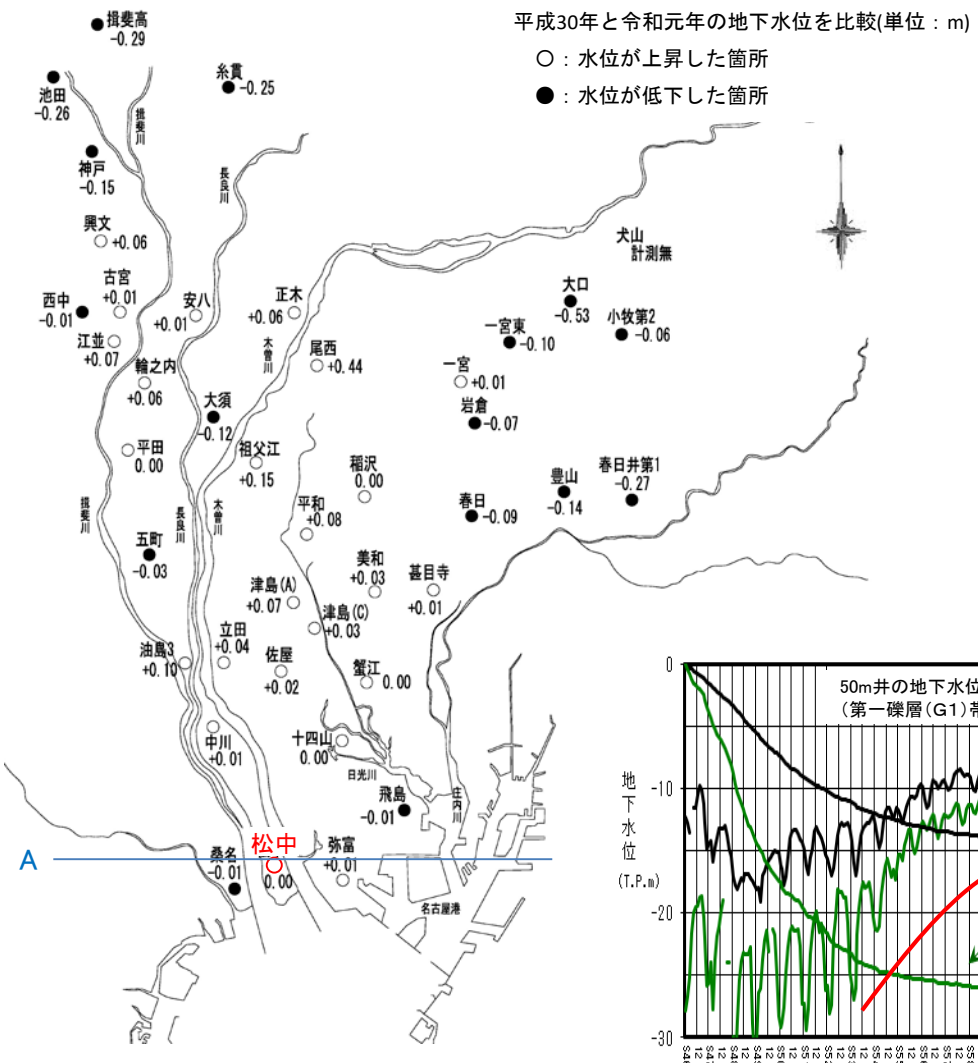
年間1cm以上の沈下面積沈下域

※沈下域 ： 年間沈下量が1cm以上の水準点が3点以上隣接する等、面的に1cm以上沈下していると考えられる区域

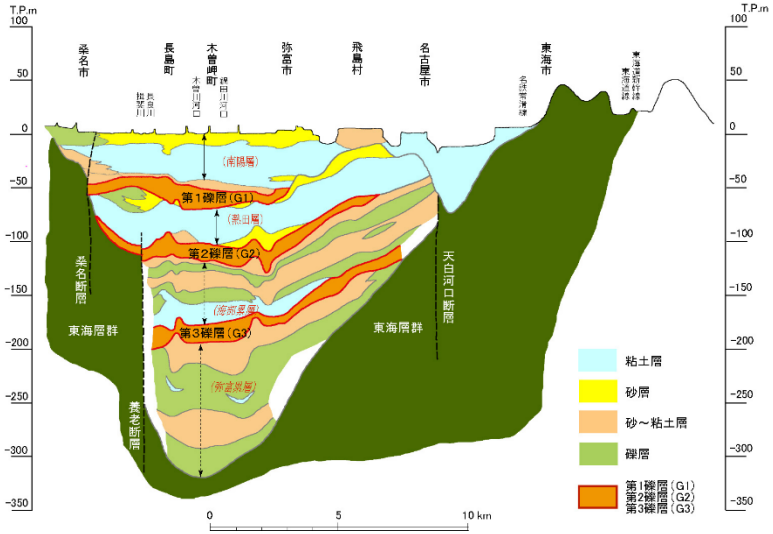
【概要資料】 令和元年における濃尾平野の地盤沈下の状況
②地下水位の状況

東海三県地盤沈下調査会

地下水位の経年的な傾向については、昭和50年代より回復（上昇）傾向に転じ、水位の低下・上昇を振れ幅を減少させながら繰り返しており、近年の横ばい傾向にある状況に変化はありません。

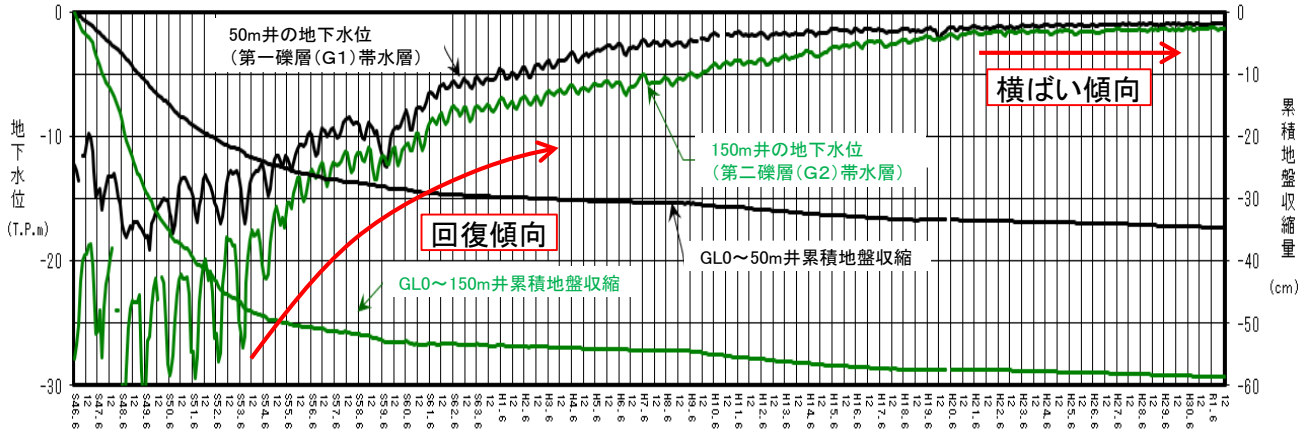


年平均地下水位の変動量
（第一礫層（G1））



濃尾平野の地層断面（A－A’測線：桑原(1985)を一部改変）

（図中の白抜き部分は、資料が少なく、累層判定が困難な部分）



松中観測所の　地下水位・地盤収縮量の変動

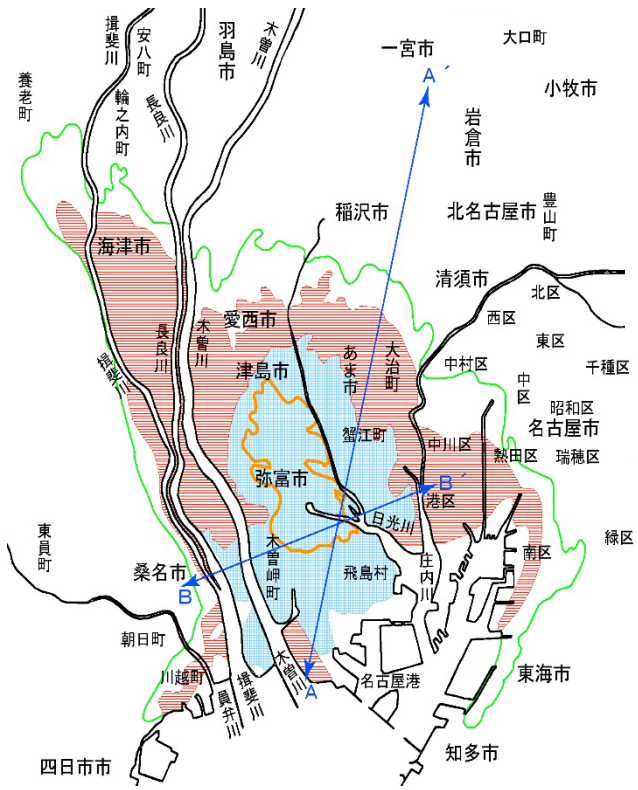
【概要資料】 令和元年度における濃尾平野の地盤沈下の状況
③とりまとめ

東海三県地盤沈下調査会

濃尾平野においては南海トラフ巨大地震等に伴って発生する津波や、気候変動に伴う海面上昇に対して関心・警戒が高まっており、高潮・洪水・内水氾濫及び地震災害等の潜在的な危険性が高いことから、より一層の注意を払い、地盤沈下状況及び地下水位の観測・監視、地盤沈下対策を長期的な視点から継続して行う必要があります。

凡　例

- 大潮における平均潮位（T.P.+1.2m）の地盤高線
- 海抜0m（T.P.±0m）以下の地盤域
- 大潮における平均干潮位（T.P.−1.37m）の地盤域
- T.P.−2.0mの地盤高線

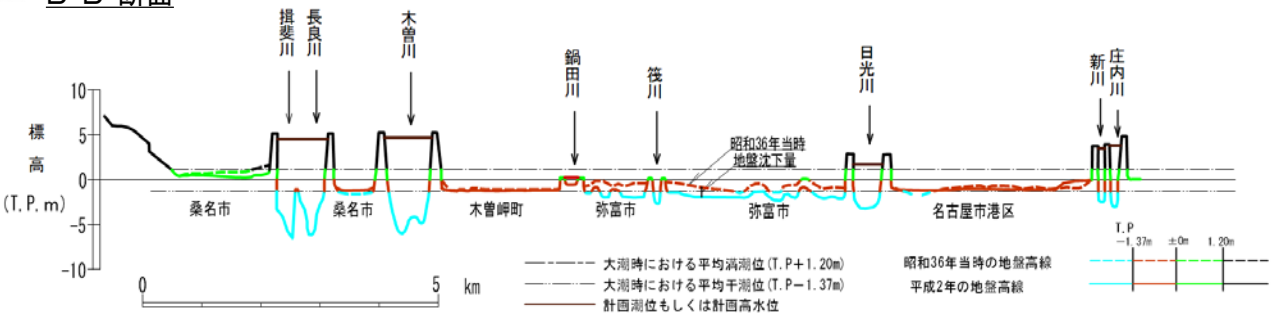


海抜ゼロメートル地帯

井戸の抜け上がり状況（三重県桑名郡木曽岬町）
（平成 29 年 7 月撮影）

伊勢湾台風時の水位及び潮位の表示
（長島地区市民センター）
※旧三重県桑名市役所長島町総合支所
（平成26年7月撮影）

B−B’断面



注：堤防高は、高潮対策等で嵩上げ等が行われており、現在の高さを表示した。
河川の河床についても、沈下以外の変動（洗堀、堆砂等）があり、平成2年の状況を表示した。